

2021/5/14-2

(うと Q 的経済夜話 その2 「能率・効率」の話)

「お役所さんには、来所者に対して、もっと効率や能率を上げて貰わないと困ります」

一方

「民間企業の上司さんには、部下に対して余り効率や能率を求めすぎないようにお願いします」

では、能率とか効率というのは、そもそも何なのか？

簡単に言うと「単位時間当たりの仕事達成量」即ち「コストパフォーマンス」の事です。

そして、この「単位時間当たり」というのが大切でしょう。

それを冒頭の二つの文言に当て嵌めて考えて見ると分かり易いかもかもしれません。

例えばお役所の出先窓口機関であれば、大方が「ルーティンワーク（定型反復業務）」で、1 クールの大体が割と「短時間業務」です。

なので、こういった言い方は大変失礼ですが「余り創造的ではない業務」は効率や能率を上げやすいですし、又それを求めるのは当然とも言えます。

簡単に言うと数をこなす必要のある業務だからです。

ところがもう一方の民間企業の、例えば開発部門。

これに対して余りにも能率や効率を求めるのは「木を見て森を見ず」や「慌てる乞食はもらいが少ない」様な結果しか得られない場合が多いような気が致します。

詰まり同じ能率や効率でも、それを測る基準となる「単位時間」の長さがまるで異なるからです。

一言で言えば「大変長い」

しかも結果や成果は「短時間業務」のように均等且つ連続的に発生しないこともままあるのです。

例えば「追い込み型ケース」や「大器晩成型ケース」のように、初めは散々失敗するが、その失敗という経験数のおかげで、最後になって果実が実る様なことの方が遙かに多いような気がします。

(是を一般には「非効率だが(非効率に見えるが) 効果的」と言います)

例を言えば5回倒産した後に、成功した自動車王のフォードさんとか、100回実験に失敗した後「後もう一回だけやってみよう」で、最後の最後でついに実験に成功し、発明王になったエジソンさんとか、です。

なので、同じ「能率・効率」でもタイプが全く異なりますので、その扱いや適用の仕方には十分注意が必要でしょう。

言い逃れのためにお役所さんが後者の適用をいいたしたり、同じく民間企業の上司さんが功を焦って前者の適用を強いたりするのは、厳に慎まなくてはならないでしょう。

勿論、我が国の「民」のために。

(追記)

このように、世を經（おさ）め、民を濟（すく）う事を「經世濟民（けいせいさいみん）」  
といい、その略語「經濟」、という語の出自となっております。